

令和6年度使用教科書採択理由

教科	国語	書写	社会	地図帳	算数	理科	生活
発行者	光村図書	光村図書	日本文教出版	帝国書院	東京書籍	啓林館	学校図書
採択理由	<ul style="list-style-type: none"> 2年生以上では、巻頭に設けられた「国語の学びを見わたそう」ページにおいて、その学年での学習の進め方と学ぶことを確かめることができる。 「読むこと」単元の扉ページには、作品・文章の導入とともに、読みの着眼点が見示されており、学習の見通しをもつことができる。単元の目標が、指導事項と言語活動の組み合わせで示されている。「これまでの学習」欄で単元の学習に関連する既習事項が見示されている。 「読むこと」単元の「学習」ページでは、見開きページで学習過程が一覧できる構造となっている。また、学習過程の中で示された課題を深く考えるための学び方の例が複数示されている。 単元末には、身に付けた学びが「たいせつ」「いかそう」欄にまとめられている。また、学習用語が明示されている。その内容は、明確で、1年生から6年生まで系統的に位置付けられている。 対話場面については、イラストと話例により分かりやすく示されている。 「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、活動の概要を単元冒頭に一覧で提示し、見通しをもてるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年生以上の全教材に、学習のポイントが分かる「たいせつ」欄が設定されている。 3～6年生で毛筆教材が充実している。 国語教科書と連動した教材が、各学年に設定されている。また、書写での学習を他教科にもいかせる教材が各学年に設定されている。書写で身に付けた力が国語科や他教科でも生きて働くように工夫されている。 書く力を伸ばす工夫として、1・2年生には、体感的に筆使いへの理解を深められるよう、児童の指にフィットする「なぞり書き用の文字」が見示されている。1・3・5年生には、腕を大きく動かして文字を書く「空書き」が位置付けられている。 3年生以上の各教材に、「学習の進め方」が見示されており、学習の流れがひと目で分かるようになっている。 毛筆の教材は、左ページに大きくすっきりと示されている。 全ての学習内容において動画のQRコードが載っており、一人一台端末を活用して学習できるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的な見方・考え方の3つの視点(空間、時間、関係)と方法を具体的に示す「見方・考え方」コーナーが随所に設けられている。各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」のページがあり、学習問題を発見、追究・解決し、よりよい未来をつくる力を身につけるとい学習の流れが、図を用いて示されている。 随所に「学び方・調べ方コーナー」「やってみようコーナー」「キーワード」等が見つけられ、言語活動を充実させる手だてが工夫されている。単元末等では、対話的な学びを示す児童の話し合いが設定されている。 単元末で、「さらに考えたい問題」についてカードにまとめ、質疑することや深め合う活動等、社会との関わりを意識させる活動例が見示されている。 地図帳や地球儀の具体的な活用方法を示し、興味・関心をもって調べられるよう工夫されている。 色覚の個人差に配慮したカラーユニバーサルデザインが使用されている。 本文を「学習内容」、「学習活動」、「友達の発言」に分けており、学習内容や学習方法が明確になるように構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業、歴史、文化、気候等、様々な資料が関連付けられており、社会的な見方・考え方を生かした学習が進められるよう、工夫されている。 都道府県の名称、位置及びその概要を、各地の有名なものや特産品等を掲載したり、形や文字に注目するトピックスを設けたりすることで多様な方法で理解を助ける手だてがとられている。 探究課題に沿った学習をする際に活用できる資料が掲載されており、言語活動に生かすことができるよう工夫されている。また、言語活動を促す設問が見示されている。 学習内容を深められるドローン動画、VR動画、デジタル地図等のデジタルコンテンツにアクセスでき、アニメーションで土地の高さや地図の仕組み等の地図の基礎基本を学ぶことができるよう二次元コードが配置されている。 使用頻度の高い統計資料、索引に十分なページ数をとるとともに、行間をあけるなど工夫されている。また、索引には日本の地名を都道府県名は赤字、県庁所在地名は赤字、歴史地名は青字など4色で統一するよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「今日の深い学び」を設け、数学的活動をとおして数学的に考える資質・能力を高められるよう工夫されている。 教科書の内容と密接に関連した1450個以上のコンテンツにアクセスできるよう二次元コードが配置されている。また、第4学年以上に「プログラミングを体験しよう」を設け、プログラミング的思考する学習ができるよう工夫されている。 「同じように考えると」を設ける等、数学的な見方・考え方を介し、既習を生かして考える態度や自ら筋道を立てて考える力を養うことができるよう工夫されている。 「いかしてみよう」を設け、日常生活でさらに学習を深め、学ぶことの楽しさや意義を実感できるよう工夫されている。 巻末に必要なに応じて自主的に取り組める「ほじゅうの問題」「おもしろ問題にチャレンジ」等を設け、個別に対応できるよう工夫されている。 問題やまとめの枠囲み、分節改行、ページ番号の処理といったレイアウトの配慮、カラーユニバーサルデザインによる配色と字体、色使いの工夫があり、様々な児童に配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の流れや学年重点の問題解決能力が説明され、「理科を楽しむポイント」として、各学年で働かせる見方・考え方に関連するキーワードが強調されており、分かりやすく示されている。 ICTを活用した学び方が詳細に説明されており、問題解決の各過程の中でどのように活用すればよいか明示されている。 プログラミングで扱っているセンサーが明るさ、人感、温度の3種類、センサーを活用したものづくりの事例が豆電球とモーターの2種類が紹介され、組んだプログラムが実際にどのようににはたらくのかを確かめやすい内容になっている。 各所に「SDGs」や「防災」、「環境」、「身の回りの生活に活かされている理科」に関連した情報やQRコードが豊富に掲載されており、より発展的で子どもたちの身近にあることを出発点とした探究を展開しやすくなるよう工夫がされている。 導入のページが見開きで写真と図を用いて、子どもを惹きつけるよう工夫されている。 実験方法や注意点、危険について図やイラストを用いて一目で分かるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の対話のヒントとなるよう、個と個の対話からグループでの対話等に発展していく場面等、発達段階に応じた対話の場面を設定し、自分の考えを広げたり深めたりできるように工夫されている。 各単元の活動では、身近な人々との関わりが盛り込まれており、言語活動を通して、児童のコミュニケーション能力が育成されるよう配慮されている。巻末の「学び方図かん」では、伝え合う手段として、「はなす」「きく」「はっぴょうする」を示し、伝え合い交流する活動を通して言語能力が育成されるよう工夫されている。 これまでの記録をもとにまとめる場面では、学習したことをまとめるだけでなく、学習を通して成長した自分についてもまとめることで、自分の成長も見てとれるよう工夫されている。 公的機関の専門家指導のもと、カラーユニバーサルデザインの考え方に則った色使いが工夫されている。また、本文では、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 教科書に直接書き込むページでは、利き手を問わず快適に書けるように配慮されている。

教科	音楽	図画工作	家庭	保健	外国語	道徳
発行者	教育芸術社	日本文教出版	開隆堂	学研	東京書籍	東京書籍
採択理由	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間で段階的、系統的に題材や教材が配列され、児童の発達段階に応じて、「見方・考え方」を働かせながら学習できるように工夫されている。 ・ページ端に、その教材を指導する際の目安となる、【共通事項】に示された音楽を形づくっている要素が掲載されている。 ・音や音楽と生活や社会との関わりを考えられる力が育まれるように、身の周りで見つけた音を音楽づくりの学習と関連づける学習が取り入れられている。 ・郷土の音楽を身近に感じられる写真、諸外国の音楽の様子が掲載されている。 ・歌唱や器楽演奏の活動が児童の実態に応じて取り組み、将来にわたって愛唱できる楽曲が掲載されている。児童の心情に訴えかける和声の響きや旋律の重なりを楽しめる楽曲が掲載されている。 ・「考える」「見つける」「歌う演奏する つくる」のマークに沿って子どもが考えたり取り組んだりしていくことができる。 ・「ムーブの部屋」としてQRコードを読み取ることで、学習に役立つ音楽や資料をウェブサイトで見聴きできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動場面の写真や話し合いの様子が造形的な視点で示されており、発想や構想の深まりのヒントになっている。 ・活動の場面ごとに学習をサポートする4つの投げかけをし、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・活動中の対話の様子が写真や吹き出しで示されており、児童が他の児童や指導者との対話を通して言語能力の育成が図られるよう工夫されている。 ・端末の活用方法をマークで例示し、さらに「ICTの活用」のページで具体的な活用例や情報モラルが紹介されている。 ・用具の使い方動画、作品ギャラリー、360度鑑賞作品等、デジタルコンテンツを活用できるよう、二次元コードが配置されている。 ・「広がる図工」では、地域で協力して作品を展示する様子、地域社会と協働した活動例、地域の美術館等、様々な事例が掲載されている。 ・目次の横に「教科書の使い方」「学習の進め方」のページが設定され、児童が活動の流れをイメージし、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材は「学習のめあて」で始まり、課題解決型学習を通して創意工夫する力を養う「生かす・深める」の活動が設定され、最後に「ふり返ろう・生かそう」で家庭実践につなげるよう工夫されている。 ・題材が、生活事象を捉え、生活に気づき、知識・技能を身に付けて生活にいかすという流れで統一されている。 ・「衣服の着方」の単位では、涼しい着方や暖かい着方にとどまらず、快適で安全な着方を工夫するために目的に合った着方を考える学習になっている。 ・実践的・体験的な活動を通して、話し合いの活動や思考する活動意見を述べる活動など、様々な言語活動がそれぞれの題材に配置され、学んだ知識や技能を生活に生かせるよう工夫されている。 ・見出しが思考を促すような書きぶりで、理由を考える基になる写真等の資料もついている。 ・実習手順は写真だけでは分かりにくい糸のより合わせや玉どめ等の部分は、イラストで分かりやすく示されている。 ・デジタルコンテンツには、児童が使いやすいよう使い方についての記述があり、「ダウンロード」ボタンを押すとタブレット端末に保存できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各小単元は、3段階で構成され、保健の見方・考え方を働かせて考えさせるよう工夫されている。 ・ワークシートや資料の動画等にアクセスできる二次元コードが配置されている。 ・各章の終わりに学んだことや今後の自分について自由記述する欄が設けられている。 ・「はってん」マークがつけられている資料に、日常生活に関わる健康についての内容が紹介されている。また、「つなぐ」マークで他教科との関連が、*マークで中学校との関連が示されている。 ・各小単元の「2友達やみんなと考える」では、「けいけんのもとに話し合う」「理由について話し合う」などで考えを整理するための記述欄が設けられていたり、話し合う活動が取り入れられていたりしている。 ・各小単元の終わりに、「ほけんのはこ」があり、児童が身につけておくと役立つことが紹介されている。 ・UD デジタル教科書体で使用され、文字の大きさについて児童の発達段階が考慮されている。色、表現・配列について、特別支援教育に配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で使われる基本的な語彙等の歌やチャンツを使った活動と「Sounds and Letters」でアルファベットの文字と音を知る活動が毎時間ある。「Let's Watch」「Let's Listen」で視覚や音声から基礎知識を習得できるように工夫されている。 ・「Let's Try」で慣れ親しんだ表現を活用して、友達とやり取りを行い、「Small Talk」には Small Talk の参考となるトピックが掲載され、さらに「Enjoy Communication」で学習内容を振り返りながらコミュニケーションを図る工夫がされている。 ・各単元の目標達成に向けて、スパイラルに活動が配置され、5領域がスモールステップで、バランスよく扱われている。 ・英語を使用する日常の場面が設定されており、日本や世界・SDGs等段階的に児童の視野を広げ、児童が主体的に取り組むことができる目的・場面・状況を伴った言語活動が工夫されている。 ・学習者用デジタル教科書では、教科書の登場人物と模擬会話ができたり、動画字幕のON/OFF機能を活用できたりする等、児童が自分のペースで学習を進められる工夫がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年巻頭に、言語活動を含めた授業の流れについて、短い文章とさし絵で示されており、児童が主体的に「考え、議論する道徳」を実現できるよう工夫されている。 ・ICT機器を活用した学習活動の充実が図られるよう、朗読、スライドショー等のデジタルコンテンツにアクセスできる二次元コードが第1学年の入門期を除く全ての教材に配置されている。 ・全学年巻頭に、教材で学んだことをもとに、自己を見つめる際の考え方が例示されている。 ・問題解決的な学習と体験的な学習を取り入れた教材が掲載されており、道徳的価値を児童が自己との関わりで考えられるよう工夫されている。 ・中・高学年では、学習への投げかけが掲載されており、児童の問題意識を喚起し、自己の生き方についての考えを深められるよう工夫されている。 ・各学年に、他教科等における道徳教育を深化、統合することを意識した教材が掲載されている。第6学年では、人物教材が複数掲載され、先人の生き方に触れることで自己の生き方について考えを深められるようになっており、中学校への円滑な接続に配慮されている。